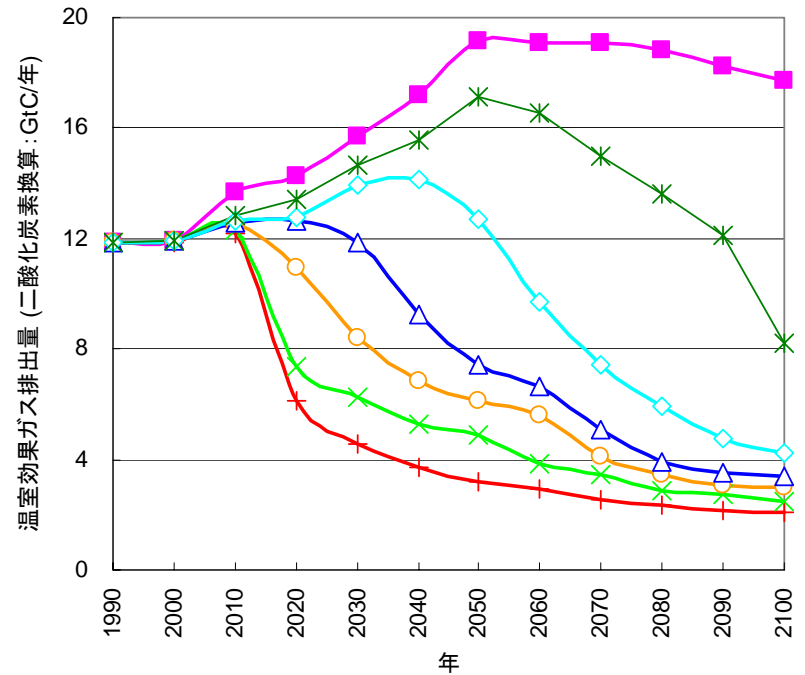
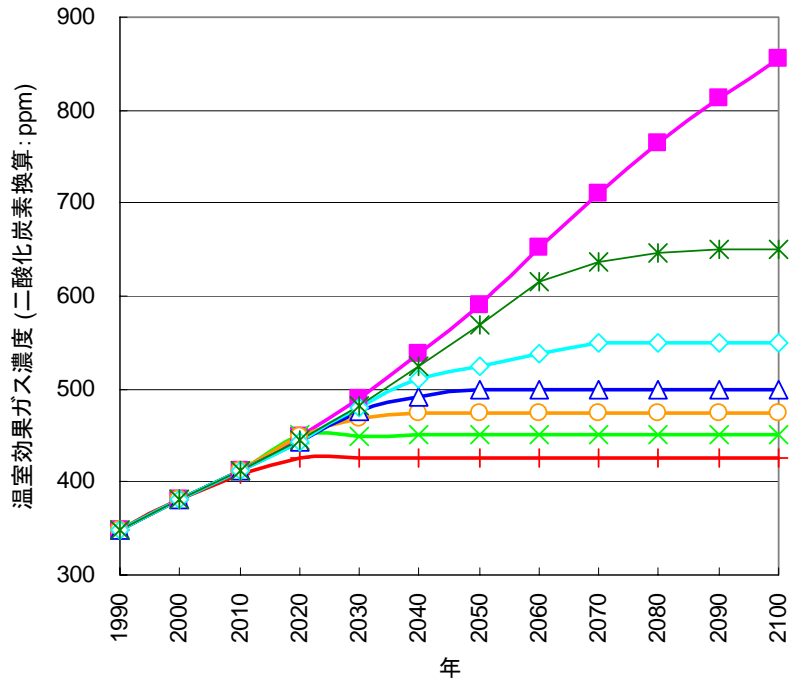


安定化濃度と排出パスの関係

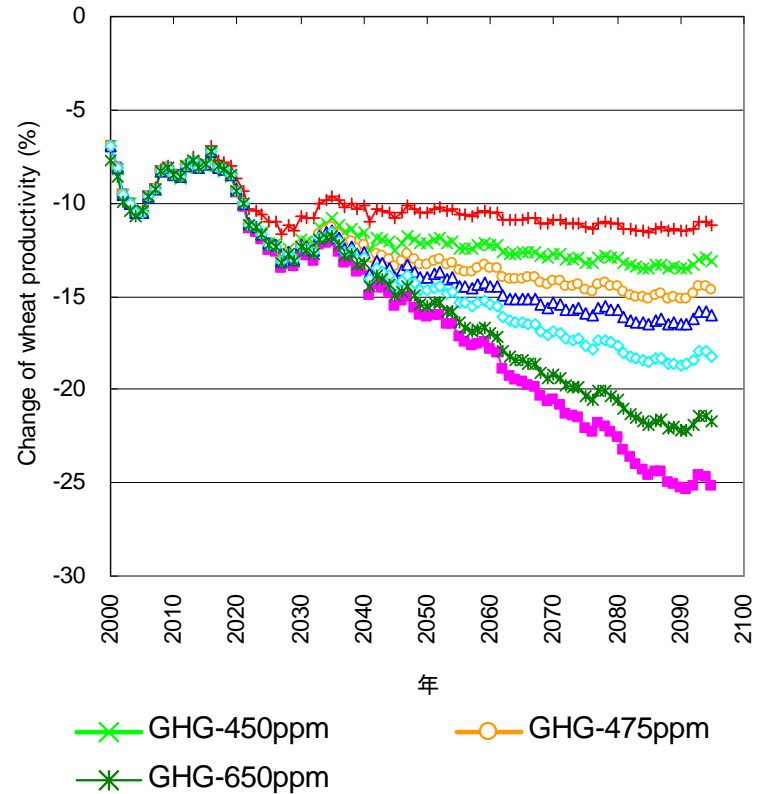
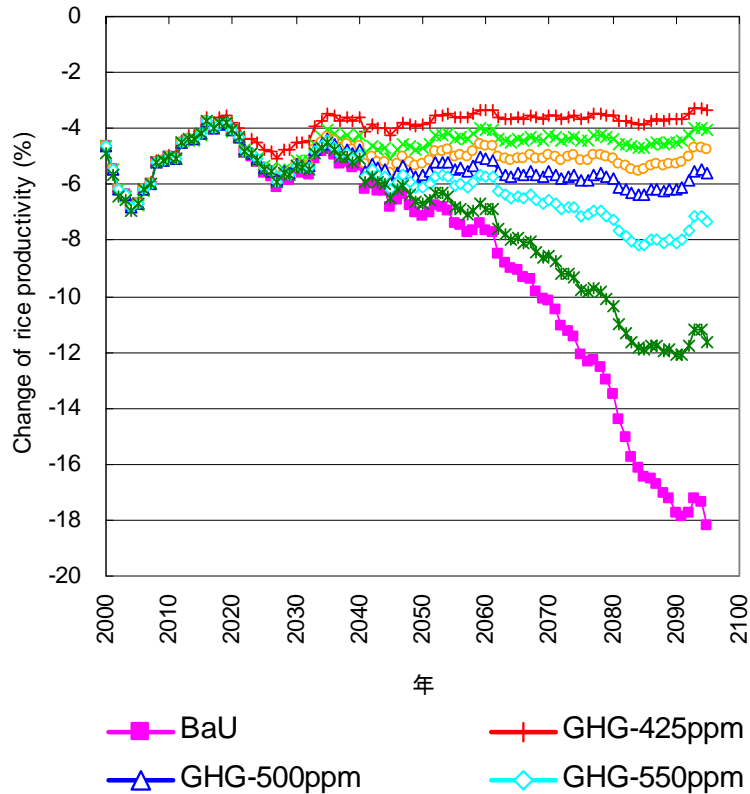
(社会厚生関数最大化、割引率4%)



■ BaU
+ GHG-425ppm
△ GHG-500ppm
◇ GHG-550ppm
× GHG-450ppm
○ GHG-475ppm
× GHG-650ppm

- BaU: SRES B2シナリオ
- 475ppmに抑えるためには、全GHGの排出量を1990年比で2020年で約10%、2050年で約50%、2100年で75%削減しなくてはならない。

安定化濃度制約下における温暖化影響例 (インドにおける米と小麦の収量への影響)



- 全温室効果ガス濃度を425~650ppm に抑えた場合のインドにおける米と小麦の収量への影響
- BaUケースでのイネ・コムギの収量影響は甚大だが、全温室効果ガス濃度を低く(例えば475ppm)抑えることにより、その影響を大幅に軽減することができる